

## 令和7年度 第3回防災安全教育秋期研修会

### 【実施日】

令和7年11月11日（火）

### 【実施場所】

城南静岡高等学校・中学校（静岡県静岡市駿河区八幡町1-1）

### 【出席者】19名

部会長：村上紀彦（城南静岡）

副部会長：鈴木孝（城南静岡） 司会

専門委員：鈴木英武（加藤学園）記録・撮影

大村充宏（富士見）記録・撮影

榛葉啓太（静岡学園）会場準備・受付・案内

鈴木重幸（静岡）会場準備

吉田和生（聖隷クリストファー）会場準備・受付・案内

鬼石郁子（オイスカ浜松国際）会場準備

参加教員：鈴木一雄（知徳）

植松正樹（沼津中央）

山口智己（飛龍）

鈴木翔太（加藤学園暁秀）

岡田一彦（静岡サレジオ）

片井奈美（静岡大成）

澁澤洋一（藤枝明誠）

常木秀晃（常葉大菊川）

和田滋（浜松学芸）

大塚涼雅（聖隷クリストファー）

小野田吉伸（聖隷クリストファー）

### 【研修内容】

10：00～

受付開始

10：30～

部会長 村上紀彦先生挨拶 諸連絡

10：35～12：00

講演『東日本大震災からの教訓 ～被災地の防災・復興教育～』

陸前高田市教育委員会 学校教育相談員 **金野美恵子先生**



- ・高校卒業後、陸前高田市立高田小学校用務員
- ・38年間小学校教員
- ・陸前高田市防災マイスター（2021.12月）
- ・陸前高田市立高田小学校校長（2022.3月定年退職）
- ・陸前高田市教育委員会学校教育相談員（現在）

～2011年（平成23年）3月11日14時46分、東日本大震災発生～

### I. 陸前高田市立の被害状況

15時27分 高田町に水煙を上げながら津波が襲ってきた

15時30分 気仙町の民家に津波が襲う

15時40分 高田市役所の方々が二手に分かれて避難

屋上に避難 → 生存

市民会館に避難 → 全員死亡

気仙町：

地震の大きさ…震度6弱

津波の高さ…15.8 m

死者…1557人

（当時の人口：24,246人）

行方不明者…202人

## II. 災害後の学校対応

### [陸前高田市立気仙小学校]

- 15時20分 多くの地域住民も児童も校庭に避難。「津波が防波堤を越えた」の声  
15時25分 駆け足で山に登り始める。斜面を登っている途中に人や家が流されるのが見えた  
16時00分 隣地区の熊谷家に到着。低学年はお寺に、高学年は神社に移動  
毛布にくるまって寝る  
翌12日朝 近くの長部小学校へ移動  
迎えに来た保護者に児童を引き渡す（消防団からの伝えで知る）  
4月20日 長部小校舎で学校再開  
困ったこと…余震と津波注意報 → 学校待機の場合の準備  
感情を表出できない子 → 聴聞で寄り添う・休み時間遊ぶ・SCとの連携  
運動不足 → 廊下で運動

### [一関市立長坂小学校]

- 14時46分 大きな揺れと窓ガラスが割れる。児童は校庭に避難する  
(泣き叫ぶ児童を安心させる)  
15時00分 児童の防寒着を取りに教員は校舎に入る。児童は、迎えに来た保護者に引き渡す  
夕方 電気がつかないので職員を早めに帰す  
3月12日 出勤できる職員で窓ガラスや特別教室を片付ける  
3月14日 学校再開に向け職員会議 → チラシにて周知  
トイレの水はプールから高学年たちの力を借りて運搬する  
困ったこと…災害時の下校方法 → 災害時引き渡し計画  
連絡方法 → 携帯電話によるPTA 掲示板開設、地域掲示板の依頼  
防寒対策 → 反射式石油ストーブ購入  
防災教育の見直し…従来型にとらわれない  
避難訓練の実施 → 予告なし訓練、アクシデントあり訓練、児童も考える訓練  
自己防災意識の向上  
防災グッズ準備（購入）→ 自転車、非常食、飲料水、携帯ラジオ

## III. 防災・復興教育の実践①

- 2011年4月2校（気仙小・長部小）気仙小学校区で津波被害を受けなかった家屋は3%だけ。  
2013年4月2校統合し『新気仙小学校』誕生 仮設住宅46%、スクールバス利用53%  
2017年6月まで校庭は使えなかった。  
2019年1月、高台に新校舎完成。

### 気仙小学校で意識した防災・復興教育

- ① 心のケアを優先…フラッシュバック・喪失感
- ② 安全に…保護者引き渡し・夕方避難訓練（学校宿泊想定）
- ③ 自助と共助…抜き打ち避難訓練・登下校避難訓練
- ④ 内陸の学校との交流…募金・手紙・交流
- ⑤ 復興途中の地域から学ぶ
- ⑥ 感謝する気持ち…支援慣れしない

### 2012年4月 第1回抜き打ち避難訓練

#### 防災リュック

（児童名簿・携帯ラジオ・マジックと紙・ガムテープ  
サララップ・ビニール袋・救急箱・飴・軍手）

6年生児童のコメント：7万本植えてあった松も場所が狭くなり4万本しか植えられなかった。

「高田松原を守る会」の人たちは、その一本一本を大切に植えて育てているので、応援したい  
と思い、草取りを頑張りました。植えた松を50年後に見てほしいという気持ちを知って、  
ますます高田松原の松を大事にしていきたいと思いました。



#### 校舎掲示「ひなんくん」

- ㊦んじる地震
- ㊤しや津波
- ㊤ぞせ高台

## 防災・復興教育の実践②

Q. 被害が大きかった高田町の高田小学校の防災教育は積極的に進められていたか？

A. 推進できない事情があった

7名の児童と58名の保護者が犠牲となる

メンタル面で心配な児童

防災教育に消極的な保護者

震災津波は決して  
負の財産だけではない！

⇒ 教員で何度も  
話し合い実践へ

職員がつながる・つなげる

『高田を知り隊』

被災地出身以外の教員が多い ⇒ 若い教員が増えてきた ⇒ ガイドと一緒に被災地を歩く

持ち物：水筒・風対策・感じる心

クイズ：奇跡の一本松の後継樹…長男ノビル・次男タエル・三男イノチ・四男ツナグ

防災教育での子供の変化

ある子の感想：「怖い、だから防災を勉強していく」

「津波伝承館を見学して変わったことは、津波が来たら高いところに避難すればいいと思っていたが、それだけではだめだと思った。」

防災復興教育に対する保護者の変化

保護者からの感想：「絵本を通して東日本大震災のことを学び、防災について学習したことが分かった。私たち親は震災後皆さんがいたから生きてこられた。これからは震災について目を背けず子供に語っていこうと思います。」

なぜ、防災教育を学んでいると思うか

- ・復興に向けたいろいろな人たちの努力を知ってもらうため
- ・防災教育を通して学んだことを未来へつなげるため など

## IV. 東日本大震災から何を学んだか

静岡県は減災に対する意識が高い県！

地震・津波はいつか必ず来る！10m以上の津波が予想される

自助 → そして防災のために力を発揮する！

防災講話や災害時判断ゲーム

[南海トラフ地震に備えて！]

天災（自然災害）は忘れたところにやってくる → 天災（自然災害）は忘れる間もなくやってくる

→ 天災を防ぐことはできないから学校教育の中で減災教育を！

学校教育の中で防災から減災へ

- ① 減災知識…地震のメカニズム、多数派同調バイアスなど
- ② 減災考動…対応を考える避難訓練、災害時判断ゲームなど
- ③ 人とのかかわり…地域とつながる、地域貢献、会話など

※日常の学校生活でレジリエンスも培っていく

減災知識…寒いときはオムツで暖を取れる



## V. 最後に

復興教育の根っこにあったもの

マイナスの経験 → 回避反応 → PTG（心的外傷後成長）もしくはPTSD（心的外傷後ストレス）

12:00~14:00

昼食をとりながら座談会・アンケート記入・閉会

報告書作成者

鈴木英武（加藤学園）

大村充宏（富士見）